

令和 6年 2月

安井 翔 学位論文審査要旨

主 査 山 崎 章
副主査 梅 北 善 久
同 磯 本 一

主論文

Neutrophil-to-lymphocyte ratio is a useful marker for predicting histological types of early gastric cancer

(好中球とリンパ球の比率は早期胃癌の組織型を予測するのに有用な指標である)

(著者：安井翔、高田知朗、紙谷悠、前ゆかり、菓裕貴、池淵雄一郎、吉田亮、
河口剛一郎、八島一夫、磯本一)

令和3年 Journal of Clinical Medicine DOI: 10.3390/jcm10040791

参考論文

1. Salvage photodynamic therapy using talaporfin sodium for local failure of esophageal squamous cell carcinoma

(食道扁平上皮癌の局所再発に対するタラポルフィンナトリウムを用いた救済的光線力学的療法)

(著者：池淵雄一郎、吉田亮、菓裕貴、紙谷悠、安井翔、中田裕資、河口剛一郎、
八島一夫、磯本一)

令和3年 Yonago Acta Medica 64巻 120頁～125頁

審査結果の要旨

本研究は、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）で切除した早期胃癌の組織型と好中球数とリンパ球の比率（NLR）ならびに血小板数とリンパ球数の比率（PLR）の関連を検討したものである。その結果、術前のNLRとPLRは腺腫の患者よりも腺癌の患者で有意に高く、さらに未分化型癌患者は分化型癌患者よりもNLRが有意に高かった。NLRのカットオフ値が3.0を超えると、早期胃癌の組織型が未分化型または未分化型成分に分化型成分が混在していることが示唆された。本論文の内容は、早期胃癌患者の組織型を簡便な方法で予想可能にする、臨床上有益な報告であり、明らかに学術水準を高めたものと認める。